【山崎名誉主宰の俳句】

某　日

山崎　聰

夕ざくら見てからの闇帰りみち

山深ければ尊しみどりあればなお

青葉騒青梅駅頭杖持って

突然に大きな音がして八月

山のこえ地のこえ夏の雨が降る

八月の越後の山の大神（おおみかみ）

駅頭緑野待っていたように雨

八月十五日もの云わぬもの海へ

関東の真ん中におり緋のカンナ

八月某日東京の空あかあかと